

6. 事業内容	<p>1. 概要</p> <p>本事業は、ガザ地区ラファ国境の危険地帯に住む7～15歳の健常児童（サナブリ学校）と、ラファ地域全体に住む11～15歳の聴力障がい児童（エルアマル聾学校）に対し、課外授業の枠でトラウマ予防のための心理社会的ケアを実施し、さらにケア実践者を養成するものである。</p> <p>ガザ地区の人々は度重なる紛争と閉鎖環境からくるストレスに日常的にさらされており、全ての人々に心理社会的ケアが急務とされている。放置しておくことでPTSD発症や、憎しみの連鎖により攻撃的になる危険が潜んでおり、まずは児童の心の安定をはかり、そこから家庭や地域への波及を目指す。</p> <p>1年目はそれぞれ約60名の児童の計120名を対象とし、約20名ずつにクラス分けをし、各クラス週1回のペースでケアクラスを実施した。さらに、聴覚障がい児と健常児童の合同クラスや合同キャンプ等を実施し、相互理解を深める活動を取り入れた（添付資料1）。2014年7月8日～8月26日のイスラエル軍とハマスの戦闘により、事業地も爆撃を受け活動を休止せざるをえない時期もあったが、絵画・粘土・音楽等のワークショップを用いた心理社会的ケアを受け、心の痛みに「向き合い、表現し、整理する」というトラウマ予防のステップを訓練している児童達は、少しずつ心が強くなっている実感がある。また、ケア実践者（ファシリテーター）の養成は、エルアマル社会復帰協会（ERS）※<sup>1</sup>の教師を対象に行った（添付資料2）。</p> <p>2年目は、健常児クラスは1年目の被益児童は卒業、新しい児童60名を対象とし、1年目のプログラムと同様のプログラムを実施する。健常児童の抱えるストレスは、空爆や銃撃戦といった「戦闘状態」に起因し、比較的単一のストレスであるが故に、1年のケアでも十分効果があると判断した。また、被益者となり得る危険地帯に住む健常児童数は多く、より多くの児童へのケアを提供すべきであるという視点で判断している。一方で、聴力障がい児クラスは、1年目の被益児童は継続するが、2014年9月に3年生※<sup>2</sup>となった児童約10名を新たに受け入れ、9年生約10名は5月の学校卒業と同時に本プログラムからも卒業となる。在校生が2年目も継続する理由は、聴力障がい児の抱える問題は、生活や学習困難、偏見や社会的サポートシステムの欠如など多岐に渡り、深く継続的であり、心のケアも継続していく必要があると判断した。そのため、2年目はより深い内容の心のケアを展開していく。また、ケア実践者の養成は、ERSや大学生等新しく5名を選出していく。</p> <p>2. 児童への心理社会的ケアの実践</p> <p>2-1. 心理社会的ケアクラス（年間）</p> <p>1年間のプログラムで「描画～二次元表現」→「粘土細工～三次元表現」→「音楽、演劇・映画～三次元表現」と表現形式を進化させていく（添付資料1）。聴覚障がい児クラスは、それぞれのクラスの内容を昨年と変化させ、より深いテー</p>
---------	--

※1：エルアマル社会福祉協会（ERS:Elamar Rehabilitation Society）

当団体の業務提携団体で、1991年からエルアマル盲学校にて聴覚障がい児童に特別支援教育を提供している。

聴覚専門クリニックでの診療やリハビリ等も提供している。

※2：パレスチナでは、9月から新学期が始まり5月に修了する。

マに取り組んでいく。各クラス約 20 名とし、健常児童が 3 クラス、聴力障がい児童が 3 クラスの合計 120 名が、週 1 回のプログラムを 1 年間行い、最後に発表会・修了式を行う（添付資料 1）。

#### 2-2. 統合クラス、オープンディの実施（年間）

健常児と聴力障がい児の交流を通し、相互理解、相互交流、相互協力を目指した課外活動である。お互いが抱えるストレスやトラウマを共有し、その解決に向けての分かち合いを可能にするための活動である。統合クラスは 3 クラス合同でそれぞれ隔週 1 回、オープンディは合同の日帰り遠足を年 2 回実施する。

#### 2-3. 夏期修学旅行（サマーキャンプ）の実施（6 月）

聴覚障がい児童と健常児童全員 120 名が参加する年 1 回、5 日間のプログラムである（添付資料 1）。内容は、描画ワークショップ（以下 WS）、粘土細工 WS、音楽 WS を行う一方で、集中した時間と空間の中で、少人数グループセッションを行い、より一層のコミュニケーション能力の増進、自己の内面の洞察、心的外傷の理解と PTSD からの予防能力向上を目指す。

#### 2-4. 学校や家族との情報交換（年間）

ファシリテーターは、ケアクラスの運営時間外を使って児童の生活や学校環境の情報収集や、関係者と情報交換をし、児童の心のケアに役立てる。学校は、健常児童が通学するサナブリ小学校と、聴力障がい児童が通学するエルアマル聾学校の 2 校が対象となる。教師とは毎週情報交換をし、定期的にケアクラスを見学してもらい児童の変化を見てもらうことや、児童の家庭訪問や家族との交流も計画している。

### 3. 人材育成

#### 3-1. ファシリテーター養成講座（年間）

心理社会的ケア実践者を養成する講座である。5 回の座学と心理社会的ケアクラスへの参加による OJT から構成される。

2 年目は新しく 5 名を対象とする。それに加え、1 年目の研修生も再学習の機会を提供する。手話教室も導入し、心理社会的ケアの知識・技術を学ぶだけではなく、聴覚障がい児童への関わり方を学べるような講座も盛り込んでいく（添付資料 2）。

#### 3-2. 海外研修（8 月）

ファシリテーター養成講座の研修生からリーダー候補を 1 名選定し、日本に招聘する。この研修は東日本大震災での心理社会的ケアの知見と実際を共有してもらうことをはじめ、阪神大震災、広島原爆等の被害からの復興の実際もみてもらう。また、心理社会的ケアを受けた児童達や、関係者との交流、ガザの現状報告、映画ワークショップ研修等も計画している。自然災害による心的外傷も、紛争や障がい者差別による心的外傷も、そのケアの手法について違いはなく、有益だと考える（添付資料 3）。

### 4. 心理社会的ケアの普及活動

#### 4-1. 「心理社会的ケア」シンポジウムの開催（1 回）

ガザ地区において、心理社会的ケアが広く認知され、また最新の知見の共有を

	<p>目的にシンポジウムを開催する。対象は、心のケアの専門家や学校教育関係者等 100 名を目標とする。内容は、これまでの同ケアの歴史、パレスチナにおける展開、本事業の概要と成果、将来への展望について等を検討している。</p> <p>4-2. 心理社会的ケアファシリテーター用テキスト作成          現在ファシリテーター養成講座は日本語のマニュアルを逐次訳したもので実施している。今年度はパレスチナでのケアの実際を反映し、パレスチナで使用可能なテキストのドラフト作りを行い、3年目にはテキストの製本し実践者に配布をしていく。</p>
<p>7. これまでの成果、課題・問題点、対応策など</p>	<p>①これまでの事業における成果（実施した事業内容とその具体的成果）</p> <p>1. 児童への心理社会的ケアの実践  <b>【内容】</b>          写真言語・描画 WS（二次元表現）、粘土細工 WS（三次元表現）、音楽 WS（四次元表現）、オープンディ・サマーキャンプ・統合クラス（健常児・障がい児の交流）  <b>【これまでの成果】</b>          ・多くの子ども達が「心理社会的ケア」を通じて自己の表現力を向上させ、今まで表出したことのないような感情表現を可能にしてきた。          ・50 日間の戦闘後初めての WS では、非常に強い心的外傷を受けたにも関わらず、子ども達は自分の体験を語る事ができた。「心理社会的ケアを受けてきている子ども達は、以前のように語ることに躊躇がなく、スムーズに自分のことを表現できるようになっている。今回の 50 日戦争は厳しかったが、子ども達の心は確実に強くなってきている。」現地職員コメント。          ・事業終了時に、心理テストにて評価予定。</p> <p>2. 人材育成  <b>【内容】</b>          専門家によるセミナー実施、ケアクラスでの実習  <b>【これまでの成果】</b>          ERS のスタッフ 5 名が研修生となり、専門家のセミナーに参加、ケアクラスにも定期的に参加し、実践からも多くの知見を学んでいる。</p> <p>②これまでの事業を通じての課題・問題点</p> <p>1. 50 日間のイスラエルとハマスの戦闘による影響          ・子どもたちへの深刻なダメージ          全ての子どもたちが非常に強い恐怖の中での生活を強いられた。また、国</p>

	<p>境地帯に住む子どもたちは、全員避難生活を余儀なくされ、3割近い子どもたちが家を失った。特に聴覚障がいの子もたちは、情報不足が故に、不安が蓄積した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・50日戦闘中は安全の確保ができず約1ヶ月半ケアクラスが休止となり、当初のプログラムから変更が必要となった。</li> <li>・心理社会的ケア研修生の海外研修は、今年度は非常事態が続いてきたこともあり、見送りとした。</li> <li>・今後もこのような外部要因による事業への影響の恐れが常にある。</li> </ul> <p>2. NGO 登録</p> <p>パレスチナ自治州政府の NGO 登録は8月末に終了し、9月上旬にイスラエル政府社会福祉省にイスラエル側の NGO 登録申請書類を提出した。認可まで5ヶ月程かかるといわれている。</p> <p>③上記②に対する今後の対応策</p> <p>1. 50日間のイスラエルとハマスの戦闘による影響</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・戦闘後は子どもたちの心的外傷を受止め、心をほぐすために1ヶ月の特別ケアクラスを提供した。10月中旬から通常のケアクラス（音楽WS）を再開したが、全プログラムを終了するために約2ヶ月半の延長申請を申請した。</li> <li>・今年度は専門家の投入時期と期間を増やし、現地で学べる環境を作ることとした。</li> </ul> <p>2. NGO 登録</p> <p>イスラエル社会福祉省からのインタビュー等の反応を待っている状況である。引き続きエルサレム事務所から照会を頻繁に行い、一刻も早い登録完了を目指したい。</p>
<p>8. 期待される成果と成果を測る指標</p>	<p>1. 心理社会的ケアの実践</p> <p>【期待される成果】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 児童のコミュニケーション能力が向上し、グループワークに積極的に参加できるようになること。</li> <li>2) 児童が自身の内的洞察ができ、自己の存在や人生観に積極的な意味合いが見いだせるようになること。</li> <li>3) 空爆・戦闘によりもたらされる心的外傷について、予防力が増すことで、PTSD から心を守れる力が身につくこと。</li> <li>4) 心理社会的ケア技術を身につけた専門家が養成され、子どもたちへの関わりが改善されていくこと。</li> </ol> <p>【成果を図る指標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 心理社会的ケアクラス</li> </ol> <p>GHQ (The General Health Questionnaire:一般健康質問紙) を用い、クラスに参加することで心の中の「健康度」がどの程度変化したのかを評価する。事業開始時 (Pre-test)、終了時 (Post-test) に行い、数値による比較検討を行う。GHQ は世界で汎用されている質問紙であり、アラビア語版もあるため選択した。数値目標として、GHQ の数値改善が7割以上の児童に認められることを目標とする。</p>

## 2) 夏期修学旅行 (サマーキャンプ)

投影法の心理テスト「バウムテスト」を合宿の前後で行い、その変化を比較する。これは一本の実のなる木を描いてもらい、そこから精神的エネルギー、安定度、将来への希望や願いの度合いといったものを読み取る。数値目標としては、バウムテストにおける「占有率」と「実の数」の改善が7割以上の児童に認められることとする。

## 2. 人材育成

### 【期待される成果】

毎年5名ずつ、研修生がより高い心理社会的ケア技術を身につけ、子どもたちへの関わりが一層改善されていくこと。

### 【成果を図る指標】

1) 事業終了時に筆記試験を行い、得点が8割以上の受講生に「修了証」を発行する。全員合格を目指す。

2) 海外研修に参加した研修生は、当団体に協力する専門家によって作成された質問紙に回答してもらい、8割以上の正当を求める。8割以下の場合は再度追加の講習を行い、日本における講習の要点の理解を深める。同時にレポートの提出を求め、内容の習熟度を評価する。

## 3. 「心理社会的ケア」シンポジウム

### 【期待される成果】

本事業のプログラム内容や成果が広く認知されること。

### 【成果を図る指標】

60名以上の出席者と地元メディアの報道が行われること。